

平成30年度小地域ネットワーク活動推進会議

※事前申込があった方については予めグループワーク用にグループ分けし、座席もグループ毎に座ってもらいました。

■開会

森会長よりあいさつ



1 基調講演 テーマ 『 みんなで支え合う地域づくり 』

公益社団法人さわやか福祉財団 さわやかインストラクター 長井 卷子 氏

- ・生活支援体制整備事業の始まりと事業の説明、全国事例の紹介をしていただく。
- ・社会の枠組みが大きく変化したことで、互いに助け合う地域づくりが進められることに。
- ・人生100年時代となり、元気で長生き（健康寿命を長く）するために、「社会参加」がキーワード。
- ・住民が主役の地域づくりを介護保険・行政が応援する体制
- ・協議体の形（構成される人々）は適宜変化し固定されない＝課題に応じて変化
- ・助け合い・支え合いの仕組みと活動は様々。地域の特性に合わせた居場所づくりや助け合い活動を創出する。
- ・新潟市のモデル事業の紹介

空家を改修し誰でも集まることができる場作り。その中で参加者が役割を持ち運営。助け合い回数券（1回300円、6枚綴り1,500円）を活用して参加者同士が自然とお互いさまの関係を築ける。

- ・子どもから高齢者まで参加する共生社会を



2 意見交換・情報共有 テーマ 『 みんなの居場所をつくるために 』

- ・基調講演を踏まえて、グループ毎に意見交換を行う。
- ・レジュメに記載の課題テーマもしくは自由に地域で抱える課題等を話し合う。以下発表グループ一部抜粋。

❖B グループ（朝日町）

- ・買い物難民について意見交換。
- ・JR 代行バスのステップが高くて乗りづらいので、もう一段低いステップがあるといい。
- ・トドックは品数が多くて見づらい。
- ・朝日町に子どもがいないので子どもの声が聞こえない。
- ・町内のサロン同士、交流するのもよいかもかもしれない。
- ・万能なバスがあればいい（買い物や通院、外出全て）

❖A グループ（落合・下金山）

- ・買い物は移動販売カケルを利用している
- ・サロンをやっているが、近くの人しか集まることができない。たくさんの人たちが参加できるように送迎などできればいいが、乗り合わせにしても何か事故があったときに心配。
- ・一人暮らしの方にどこまで踏み込んでいいか悩む。
- ・おせっかいおばさん・おじさんはいっぱいいる。

❖C グループ（岐阜・ヘルパー）

- ・元気なうちから出かける事が大事であると改めて感じたが、なかなか集う場所はない。
- ・昔は家の行き来をしていたが今は集いの場に変化し、家族や仲間にも気を遣っている感じがする。
- ・小さいころから地域の支え合いを体感する機会があるとよいのでは。

❖E グループ（教育・子ども関係）

- ・高齢者の問題は子どもや子育ての親世代と共通していると感じた
- ・H31 年度からファミサポ事業をスタートさせる予定。多世代の方々に事業運営のための会員となって支えてもらえたら。親子の居場所作りや異世代交流の機会もつくっていききたい。

■長井氏による総評

■閉会 上林常務理事よりあいさつ